

平成 23 年度 (株) JCN 船橋習志野放送番組審議会 議事録

1. 日 時：平成 24 年 3 月 26 日(月) 午後 3 時 00 分～午後 5 時 15 分

2. 場 所：船橋市本町 7-11-1 船橋グランドホテル地下 1 階 蘭の間

3. 出席者：

放送番組審議会 会長 伊藤 賢二 (船橋商工会議所会頭)

同 委員 井澤 修美 (習志野市広報課課長)

同 委員 海寶 嘉胤 (習志野市社会福祉協議会会長)

同 委員 加藤 健一 (船橋市広報課課長)

同 委員 国松 実枝子 (元千葉県教育委員長)

同 委員 西村 由美 (船橋商工会議所事務局長)

同 委員 山田 宏 (習志野商工会議所理事事務局長)

(株) JCN 船橋習志野 代表取締役社長 生田目 實

同 取締役兼放送担当 (司会進行) 鈴木 俊一

同 放送部マネージャー 梅澤 幸生

ジャパンケーブルネット (株)

メディア事業本部 コミュニティコンテンツ運用部 千葉エリア制作・営業室 室長 日沖 英明

前千葉エリア制作・営業室 室長 伊澤 和紀

(事務局)

(株) JCN 船橋習志野 放送部 林 正男

同 放送部 上野 由美子

4. 欠席者

放送番組審議会 委員 鈴木 とし江 (習志野市民祭り実行委員会事務局次長)

敬称略

上記の通り出席があり、放送番組審議会規定第 4 条の定めに従い、放送番組審議会は有効に成立したので、定刻審議に入った。

5. 議事

(1) 開会の辞

弊社取締役 鈴木より、開会の宣言がなされた。

(2) 会長挨拶

伊藤会長より、挨拶と新委員(井澤・加藤・西村・山田委員※敬称略 五十音順)の紹介と議事進行についての説明があった。

(3) 社長挨拶及び事業概要説明

弊社社長 生田目より、委員各位の日頃の支援に対する御礼挨拶と、当社の事業概要について詳細な説明があった。

(4) 平成 23 年度番組編成および平成 24 年度番組編成説明について

放送部マネージャー 梅澤より、平成 23 年度および平成 24 年度の番組編成について、ビデオでの番組紹介とともに詳細な説明があった。

(5) 質疑・意見交換について

議長である伊藤会長が、各委員に諮ったところ、下記の発言があった。

記

伊藤会長： JCN は、コミュニティチャンネルの PR をどのようにしているのか。

日沖室長： JCN では、今年から松平健さんをイメージキャラクターにして PR 活動を実施している。電車の中吊りや駅のホームなどにポスターを掲出、CM も展開するなど PR に力を入れている。

伊藤会長： 街中を走っている JCN の車がとても目立つけれど、そういったものを使って JCN プラスチャンネルのこともっと周知するべきではないか。PR が足りない。

日沖室長： 今後、親しみと地域性をより持たせるために「JCN プラスチャンネル」というチャンネル名を変更する予定。地域のミニコミ誌（紙）などともタイアップして、PR に努めたい。

井澤委員： 習志野市民のなかには、今でも親しみをこめて「タウンテレビ」の名前で呼ぶ方が多くいる。

梅澤マネージャー(以下梅澤 M)： ありがたいことに「タウンテレビ」という名前が未だに浸透している。負けないうらい「JCN」という名前の PR 活動を強めたい。

国松委員： 「職人魂」という、とてもいい番組があり、放送を見て感動した。でも番組表を見ると、日によって放送時間がバラバラ。きめられた曜日や時間にしたいほうが視聴者には分かりやすいのではないか。

日沖室長： 以前、「同じ番組がいつも流れている。何で？」という意見が多かったことから、デイリーニュースや広報番組以外は、基本的に帯編成はしないことにしている。

海寶委員： 特別番組枠として「習志野きらっと」や「学校音楽祭」などは放送予定に入っている。年末に行われる「習志野第九演奏会」も長い歴史のあるものであり、是非放送してほしい。

梅澤 M： 4 月から各種催しや公園、スポーツ大会などを紹介する「イベントズームアップ」という 1 時間の番組が始まる。イベントは市民の関心が高いので、その中でより多くのイベントを取り上げていきたい。

伊藤会長：取材を依頼する窓口について周知してほしい。たとえば、市役所の広報課に言えば OK とか、ルートを明確にしてほしい。

梅澤 M：取材については、放送部で情報収集を行っている。また、船橋・習志野両市の広報課からもたくさんの情報提供をいただいているが、より一層窓口の周知に努めたい。

鈴木取締役：今年度は、町会や自治会、社会福祉協議会などの会合に出席させていただき、コミュニティチャンネルの PR と情報提供をお願いしてきた。その結果、情報を提供していただき取材したケースもある。こちらから地域の中へ入っていくことも大切であり今後も続けていく。

加藤委員：JCN は、記者クラブに入っていないが、同じ情報を JCN に提供している。市の広報番組は、市と JCN で協議して決めている。一般の人からの情報も多くが広報課に入るののでそうした情報も JCN に提供している。

井澤委員：私どもへ情報提供してくださる市民の方にも、地域メディアとしての JCN の存在が周知できるよう、協力していきたい。

加藤委員：JCN のエリアは、船橋と習志野の 2 市に跨っているのので、両市の間に境界線を引かずに、両市民が一体となって楽しめるような番組があるといい。たとえば、両市とも音楽が盛んな街なので、音楽に関する番組などはいかがか。

梅澤 M：ご提案いただいたような番組を是非作っていききたい。

山田委員：JCN プラスチャンネルは、予約録画をする時にキーワード検索はできるのか。

梅澤 M：できますが、今後はもっとわかりやすい、たとえば、「シニア向け」「子供情報番組」などのキーワードでも検索できるように検討したい。

西村委員：番組数はケーブルテレビ的には妥当なのか、民放だと毎日違う番組が放送されているが。

日沖室長：他のケーブルテレビに比べて、JCN の番組数は多いほうである。

梅澤 M：4 月からは、局制作の新番組を 4 つ増やす予定。今後も番組の充実に努めていく。

西村委員：地震速報は出せないか。

日沖室長：現状のシステムでは難しいので、緊急地震速報の端末で対応している。

梅澤 M：防災行政無線や災害・防犯情報など、緊急のお知らせをデータ放送で展開する予定。地震速報については、天気情報とのリンクで対応しているので、積極的に PR をしていきたい。

西村委員：生放送番組を増やすと親近感が湧くので、積極的に実施していただきたい。

梅澤 M： 生放送用の中継機器を導入したので、デイリー船橋習志野などでも活用し、増やしていきたい。

以上

(6) 閉会の辞

以上で議事の全てを終了したので、弊社取締役 鈴木より、午後 5 時 15 分閉会の宣言があった。